



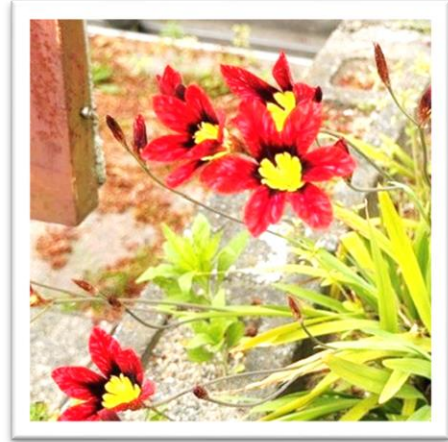
創立153年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和8年 5月号
児童数350名 文責 澤村幸夫



つながる



校庭のスバラキス(和名:スイセンアヤメ)がきれいに咲いています。この時期に毎年、細長い葉の間から細い花茎を伸ばし、はっきりとしたコントラストの花を咲かせます。スバラキス・トリカラーという名前前で、トリカラーとは3色という意味です。花卉の中心が黄色と黒色で、それに花卉の赤色が鮮やかです。一花の寿命は4日ほどと短いのですが、次々に咲いて1か月くらい楽しむことができます。

教育は、今現在のありようを考えて行うのではなく、まして、過去の出来事や文化を考えて行うのではありません。未来を見すえ、目の前の子どもたちが、5年後や15年後にどういった世の中をたくましく幸せに生きるのか、という課題に向かって、今つけなければいけない力を育てていく営みです。

2040年問題と言われるように、今の小学生が社会に出て働く頃には、高齢者の人口がピークになり、深刻な人手不足、社会インフラの老朽化が起こります。VUCA(ブーカ)時代到来とも言われ、変動性(V)、不確実性(U)、複雑性(C)、曖昧性(A)がますます加速しています。そんな社会を幸せに生き抜くためには、「正解のない問いに対して答えを見つける力」「自ら課題を見つけ、周囲と協働しながら、課題解決に向けて取り組む力」が必要となります。

そこで、私自身がこれまでの経験から教育において一番大事にしたいことをキーワードで表します。ズバリ「つながる力」です。人は決して一人では生きていけません。科学技術の発展や生成 AI の台頭により便利な世の中になっても、やはり人と人とのつながりが必要です。最後は、温かみがある人と人とが意思決定していく世の中です。学校という社会のなかで、さまざまな価値観に出会い、時には子ども同士ぶつかり合いながら、切磋琢磨していく過程こそが尊いのです。子どもたちが多くの大人と出会い、多くの価値観に触れる機会を大切にしたいと思います。具体的な内容を以下に述べます。

- ① **子ども同士がつながる:** 従来の一斉指導型学習形態から、チーム(グループ・班)で取り組む活動を増やすことです。新学習指導要領(2030年度全面実施)では、「探求的な要素」を持つ学習活動の充実が謳われています。他者と関わり協働する力を育成していきます。
- ② **子どもと教師がつながる:** 「チーム担任制」を実施しています。従来の固定担任制から、複数の教員が学級の子どものたちを担当します。複数の教員の価値観に触れ、多くの学びを吸収してほしいと思います。相談があるときには、どの先生でも話しやすくなります。2年前から始めたお昼の「魔法の部屋」も、子どもたちの心を耕す一助になればと思います。



学校のアマゴ
本文との関連はありません。

- ③ **子どもが地域とつながる**:和邇地域在住の多くの皆様に、ゲストティーチャーとして、子どもたちの学びを支えてもらっています。また、地域の会場をお借りして「わにっこギャラリー」を開催したり、「まちなか展覧会」と題して、子どもたちの作品をお店に展示していただいたりしています。「夢づくりプロジェクト」では、地域の皆様と連携して、祭りを盛り上げたり、「防災」をテーマに、子どもたちが地域と主体的に連携した事業を推進したりしています。
- ④ **幼稚園・保育園とのつながり、中学校とのつながり、大人同士のつながり**:園児と小学生の交流を進めています。「かけはしプログラム」を軸に学びの連続性を考えています。中学校への進学も重要です。比良山麓子ども会議や中学校での体験活動、小学校への出前授業を実施しています。また、保護者同士のつながりも大切です。大人が、予測される子どもの困難を予め取り除いてやるのではなく、1つ1つの事象を子ども自らが考え、解決方法を大人と一緒に考えていく、そんな関係でありたいと思います。価値観の多様な現代社会においても、他人の子どもの成長を見守ることが、回りまわって自分や自分の子どもの豊かな成長につながるものです。



和邇小学校では、毎月1回「人権の日」を設定しています。「人権」というと「何か特別なこと」と感じるかもしれませんが、「人権」とは「私たちの生活のすべて」のことを指します。食べて寝て、遊んで勉強して、そして誰もが元気に楽しく「自分らしく」生活する、という意味です。大切なことは、「誰もが」ということです。「自分が」だけでなく、大人も子どもも「すべての人が」ということです。人権の日は、自分のこと、友だちのこと、家族のこと、周囲の人のことを考える時間です。放送を聴いたり、ビデオを視聴したりして、自分はどうしていったらよい



か、学級で話し合い、考えていきます。人と「つながる」ためには、「人の気持ちが分かる」ことがとても大切です。

★お知らせ★ 和邇学区子ども会育成協議会は昨年度末、解散となりました。そこで、和邇小学校では、令和8年3月末残金 351,845 円を活用し、全校児童および保護者対象の講演会と映画鑑賞を実施します。



4月21日(火)に全校避難訓練を実施しました。火災を想定した訓練で、ハンカチを口にあって避難しました。今回のめあては、避難経路の確認と「お・は・し・も・て」の基本行動を身につけることです。1年生から6年生まで、素早く安全に避難することができました。



火災に限らず、地震や山林火災、土砂災害、台風など、今後起こりうる非常事態に備え、準備をしていくことが重要です。各ご家庭におかれましても、いざという時の行動確認をお願いします。

お知らせ(保護者や地域の皆様へ)

学校では、子どもたちの自己肯定感を高めるために、「校外活動で表彰などを受けた場合に、給食の時間に全校で紹介する伝達表彰の取組」を行っています。スポ少やクラブチーム、習い事、文化活動、資格などで表彰などを受けた児童がいましたら、団体でも個人でも、また賞の大小は問いませんので、学校までお知らせください。(賞状や証書、トロフィーなどを持ってきてください。)期間は、今年度(令和8年4月以降令和9年3月まで)です。和邇小学校の子どもたちの学校外での取組や頑張りを、広く全校児童にお知らせすることで、互いに認め合い、支え合える関係をつくり、また、励みにつながればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

新シリーズ

最新!

子どもの たからもの



第2弾 「小学生の心の世界」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ最新の情報を掲載したいと考えています。

子育ては思うようにはいきませんし、子育てに悩みはつきものです。そこで、40年間の教師人生で、私自身が子どもや保護者から学んできたことをお知らせし、“少しでも参考にさせていただければ”という思いで掲載します。

第2弾は「小学生の心の世界は？」です。子どもたちは小学校6年間で、目覚ましい成長を遂げます。その6年間で、子どもの心はどのように発達し、変化していくのでしょうか。もちろん子どもは一人一人違いますので、1つの決まったパターンに当てはめることはできませんが、だいたいの見通しをもっておくと、いざというときにあわてずに済みます。

小学生を1・2年(低学年)、3・4年(中学年)、5・6年(高学年)に分けて、それぞれの特徴を考えていきたいと思えます。今回は「低学年」を取り扱います。

この時期の子どもたちは、幼稚園や保育園などの比較的小さな集団から、小学校という大きな集団に踏み込む時期です。こどもの環境は大きく変わります。期待もありますが、不安も大きいように思います。また、本格的に学習が始まります。言葉の発達で言うと、それまでは「話し言葉」が中心でしたが、小学校になると「読み書き」が始まります。心の成長でいうと、まだまだ幼い部分と、小学校1・2年でびっくりするほど成長を感じられる部分とが出てきます。また、「自己主張」の発達に比べて「自分をコントロールする力」は後から育ってくるものなので、自己中心的な言動があったり、友だちとうまく遊べなかったりする時があります。低学年の時期は、まさに「自分をコントロールする力」、言い換えれば「社会性」を身に付ける時期とも言えます。

この時期に接する親や教師は、どんな関わりを大切にしていけば良いのでしょうか。



学校のヒレナガニシキゴイ
本文との関連はありません。

幼稚園や保育園では、小さい組さんから頼りにされ、何でもこなしていたのに、小1になった途端、子ども扱いされ、何もできなくなる、とよく言われます。幼稚園・保育園の年長さんは、身の回りのことだけでなく、年少さんの世話や先生の手伝いまで何でもこなします。しかし、小学校1年になると、学校の最年少として扱われるので、世話をされるのが当たり前、とたんに何もできなくなる、というわけです。小学1年生といえども、力があります。それを信じてどんどん任せていくことが大事です。そして、できたことを認めていきましょう。それが「やればできる」という自己肯定感につながっていくのです。

一方、そうは言っても、低学年では、まだまだ大人の手助けが必要な場面があります。忘れ物がないかチェックしたり、お便りに目を通して必要なものを準備したりすることは、まだ大人がする必要があります。

また、この時期は、学校での出来事をよく話してくれるので、5分でも10分でも、学校での出来事を聞いて、嫌なこと、つらいことがあったときは、それをちゃんと共感していくことが大切です。そのことで、子どもは、「つらいことがあっても、お家の人聞いてくれる」と、大人への信頼感を育み、それが、明日への活力になるのです。逆に、学校でつらい思いをしていますが、それを家で吐き出すことができないと、それが心の底にどんどんたまって、腹痛や頭痛など、身体症状として出てくるケースもあります。仕事や家事で忙しい中ですが、手をとめて、心をしっかり受け止めていくことが大切です。

ディスクスの産卵

ここを
クリック

期間限定 5/1~7/31



学校のミッキーマウスプラティ
本文との関連はありません。